

2025ジュニアニュースNo.3

第3号 (一社)全日本ジュニア体操クラブ連盟

発行日：2025年8月21日(木)

発行所：東京都中央区日本橋1-16-6 久富ビル4階 Tel：03(3281)7788

「2025ジュニアニュースNo.3」をお届けいたします。

指導者の皆様におかれましてはご確認よろしくお願い申し上げます。

今回の連絡事項は下記のとおりです。

1. 「体操競技男子ニュースレター翻訳版ならびに国内適用日」について

1. 体操競技男子ニュースレター翻訳版ならびに国内適用日について

8月20日付けにて(公財)日本体操協会ホームページに表記について情報が掲載されましたのでお知らせ致します。

以下(公財)日本体操協会ホームページより

※2025年8月6日付で掲載しましたFIG(国際体操連盟)News Letterの翻訳版および国内適用について掲載いたします。

※関係者は各自ご確認下さい。<https://jpn-gym.jp/news/artistic-gymnastics/2114>

2025 年 8 月 20 日

関係各位

公益財団法人日本体操協会
体操競技男子強化本部
審判委員会体操競技男子審判本部

体操競技男子 FIG ニュースレター(No.1)発行に伴う国内適用について

FIG（国際体操連盟）は2025年 8 月 5 日に公式ホームページ上にてニュースレター(No.1)【2025年 8 月】を掲載し、2025年版採点規則に関する新しい情報を公開しました。

本情報の内容を強化本部および審判本部で検討し、国内競技会における適用を以下の通りとすることが決定致しました。次頁以降の日本語翻訳版の内容によって適用開始日が異なりますのでご注意下さい。

文字の色	内容	適用開始日
黒文字	すでに公開されている内容	適用中
緑文字	新しい情報	2025 年 11 月 1 日
赤文字	新しい情報	2026 年 1 月 1 日

【原文】 FIG 公式サイト：Men's Artistic Gymnastics News Letter Nr 1 - August 2025 (english)
http://www.fig-docs.com/website/newsletters/MAG/2025/MAG_NL_1_en.pdf



Men's Artistic Gymnastics

NEWSLETTER – N° 01 – August 2025

翻訳: 公益財団法人日本体操協会 審判委員会 体操競技男子審判本部



体操競技男子 FIG ニュースレター NO.1 (2025 年 8 月) 【日本語翻訳版】

ローザンヌ(スイス) 2025年8月

男子体操競技関係者の皆さま

第16サイクル最初のニュースレターに、すべての審判員とコーチの皆さまをお迎えできることを大変嬉しく思います。技術的な更新に加えて、技術委員会(TC)が将来に向けて取り組んでいることについてもご紹介します。最初の会議で、私たちは今サイクルの戦略と計画を策定しました。これは、男子体操競技関係者全体および各連盟(NF)や大陸連盟からのフィードバックに基づき、このスポーツをいかに発展させるかという観点から作成されました。私たちのアプローチは、次の3つの分野に焦点を当てています。

1. 競技の発展 – デジタル技術を活用して採点の公平性を向上させ、知識と情報の共有を支援する。
2. 競技の拡大・普及 – 新しい形式やイベントを通じて、すべての人の体験を向上させ、体操競技の魅力を広げる。
3. 協議と協力 – 体操競技関係者の声に耳を傾け、協力してすべてのニーズに応える。

今年、国際審判員講習会を開催して下さったすべての各国体操連盟に感謝いたします。これらの講習会は非常に良く運営され、過去最高の900人以上の審判員が国際審判ブレーベを取得するという成果を上げました。TCは、講習会の実施を支援して下さった前メンバーの方々、Arturs Mickevics (LAT)、Jeff Thomson (CAN)、Dmitrii Andreev (RUS)に心から感謝いたします。さらに、FIGおよびSTSのメンバーが、全種別の講習会の調整と試験の実施に特別に貢献して下さったことにも感謝申し上げます。講習会の詳細なレビューが完了し、種目ごとのEスコアの評価方法や講習会費用の削減方法などに関するフィードバックを反映した提言がなされました。

上半期には、6つのワールドカップと3つのワールドチャレンジカップが終了しました。参加者数は初年度らしい傾向を示していますが、大会の質は向上しており、クロアチアとカイロでは初めてポディウム台が使用されました。また、ウズベキスタンのタシケントで初のワールドチャレンジカップが開催されました。

現在、インドネシアのジャカルタで開催される個人総合世界選手権と、フィリピンのマニラで開催されるジュニア世界選手権の準備も進めています。ジャカルタでは、D審判の作業を支援するために富士通の採点システムの利用を拡大し、来年FIG競技会で本格稼働する前に”リアルタイム採点システム”の最終テストを実施します。

2025-2028年版の採点規則の変更によってもたらされた全体的な効果にはTC一同満足しています。フィードバックの多くは好意的であり、特に技数を10技から8技に減らした点が評価されています。今後も、採点の簡素化を図るとともに、選手、コーチ、審判員からのフィードバックに応える方法を模索していきます。

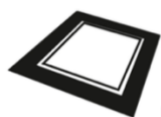
FIG男子技術委員会は、2025-2028年版男子採点規則に関して以下の解釈と明確化を行いました。また、国際講習会でよく寄せられた質問への回答も含まれています。以前のニュースレターで明確化した内容も本ニュースレターに統合しました。さらに、今サイクルで実施され、選手の名前が与えられた新しい技も紹介しています。これらの明確化は即日適用されます。

本ニュースレターが「NO.1」として表記されているのは、以前のニュースレターの関連情報がすでに採点規則に組み込まれたためです。以前のすべてのニュースレターは適用されなくなります。



テンション コントロール センサー(TCS)

器械・器具規則に従って、つり輪と鉄棒におけるワイヤーの張力は1000～5000 N(ニュートン)の間に設定する必要がある。主要な競技会では、規定外のワイヤー張力を示すTCS装置が各器具に取り付けられる。



Floor Exercise ゆか

バランス技の要求について

1. FIG技術委員(TC)は、ワールドカップシリーズと各大陸選手権後に、新しい採点規則のレビューを行った。この中で常に否定的なフィードバックを受けていた領域は、ゆかの演技に片足平均立ちを実施しなければならないという項目であった。

ゆかの当初のビジョンは、アクロバットの跳躍技と、力技、バランス、柔軟性、倒立技、コレオグラフィ的な運動との組み合わせなどの体操的な要素を融合させ、調和のとれたリズムカルな演技を実施することであった。バランス技だけが、ゆかにおける技の多様化をもたらしたり、タンブリング技ばかりの演技を減らしたりする、唯一の技として意図されたわけではなかった。

選手が自身の得意な能力に適した技を選択できるようにし、かつタンブリング間の調和のとれたリズムを示すコレオグラフィ的な運動を奨励することで、最終的にゆか運動の全体的なバランスと魅力が向上するだろう。

したがって、選手は片足平均立ちまたは、特定の技リストにある(ひねりを伴う)ジャンプ/リープを演技に含める必要がある。この片足平均立ちまたはジャンプ/リープは、カウントされる8技に含まれる必要はない。これらの動きが含まれない場合、D審判によって0.30の減点(ND)となる。該当するジャンプ/リープのリストは以下の通りで、最低でもA難度以上である(図はP.9の付録を参照)。



1. I.67 後ろとび正面支持臥
2. I.68 後ろとび屈・伸身正面支持/後ろとび1回ひねり正面支持
3. I.74 バタフライ1回ひねり/後方バタフライ1回ひねり
4. I.75 バタフライ2回ひねり
5. I.115 前とび1回ひねり正面支持臥
6. I.116 後ろとび 3/2 ひねり正面支持臥
7. I.117 前とび2回ひねり正面支持臥
8. I.43 前とびひねり倒立
9. II.8 伸身前とび1回ひねり前転
10. I.73 鹿ジャンプ1回ひねり

2. I-68後ろとび屈・伸身正面支持(エンドー)は、着手後にコントロールされながら正面支持に入ることが認定の条件である。動画の実施は、D審判によって不認定となり、E審判によって不安定な着地の減点がなされた例である。



3. 選手は演技をアクロバットの跳躍技(グループ I 以外の技)から開始しなければならない。そうでない場合、D審判によって0.30の減点(ND)となる。

レビューにより、選手がこれまで雑なコーナー移動を行っていたり、すべてのコーナーで同じ移動の動きをしていたりすることが判明した。そのため、以下の修正がただちに適用される。

タンブリング間に調和のとれたリズムを生み出すために、特にコーナーではコレオグラフィ的なリープとターンの組み合わせを使用するべきである。



- ・(180°ターンを伴う/伴わない)単純なステップは、芸術性の欠如として小欠点(0.10)となる。
- ・すべてのコレオグラフィ的なリープ、ジャンプ、ターンは、十分な大きさで身体の開きを示す必要があり、そうでない場合は小欠点(0.10)となる。

2026年1月1日以降、コーナーへの移動の動きはすべて異なるものでなければならず、そうでない場合はD審判によって0.30の減点(ND)となる。動画には、認められる移動の例が示されている。



2026年1月1日以降、種目間の採点の一貫性を確保して採点を簡素化するために、D審判は、はじめに終末技をカウントし、その後、難度の高い順に7技をカウントする。

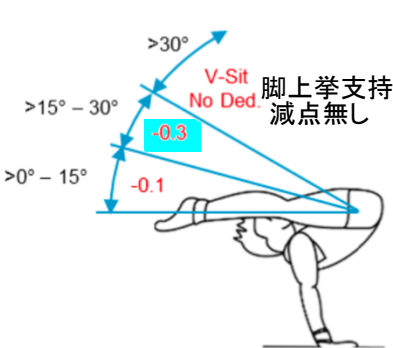
シュピンドルからの倒立(EG I #93 と #100)

1つの独立した技として認定されるために、シュピンドル(I-92)は最大2回の旋回(開始姿勢から3回の正面支持)で実施されなければならない。I-93 および I-100 においては、3回目の正面支持は必要ない。なぜならば、倒立への持ち込み動作となるからである。(採点規則の図を参照)。

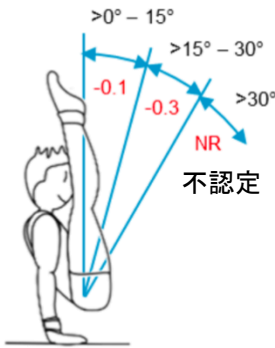


マンナと脚上拳支持

マンナの正しい姿勢は、脚が床面と水平な状態である。脚が水平から最大30°不足する場合、0.10または0.30の減点となる。垂直までのその他の脚の姿勢は、角度減点のない脚上拳支持として認定される。脚が垂直から最大15°不足する場合は0.10、15°超から30°不足する場合は0.30の減点となる。30°を超える場合は不認定となる。



減点の無いマンナ



減点の無い脚上拳支持



Pommel Horse あん馬

交差技の認定

交差技において、技が完了する前に脚で支えた場合、その技は不認定となり、落下なしに演技を中断したとして0.50の減点となる。腕のわずかなまがりや馬体へのわずかな接触があった場合は、それぞれ0.10の減点となる場合があるが、その技は認定される。



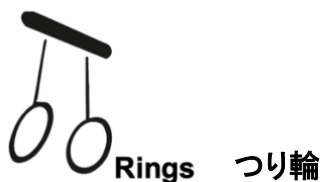
ベルトンチェリから一把握上横向き正面支持

ベルトンチェリ(II.57)は、一把握上での縦向き正面支持または横向き正面支持のいずれかで完了することができる。したがって、ベルトンチェリ横向き正面支持からも、フロップまたはコンバインを開始することができる。



1+2		一把握上縦向き旋回/ シュテクリB/シュテクリA	
		3	4
ベルトンチェリ/ダフチャン + 一把握上縦向き旋回 または ベルトンチェリ+シュテクリB	+	E	F

ベルトンチェリ/ダフチャン + 一把握上縦向き旋回 または ベルトンチェリ+シュテクリB	ロシアン		
	+	R180° or 270°(B)	E
	+	R136° or 540°(C)	F
	+	R720° or 900°(D)	G
	+	R1080°(E)	H



振動倒立技

振動倒立技の要求を満たす技は以下の5技である。

- a. 1.75 後方車輪倒立(2秒) / ほん転逆上がり倒立(2秒)
- b. 1.81 前方車輪倒立(2秒) / 後ろ振り上がり倒立(2秒)
- c. 1.86 支持後ろ振り倒立(2秒)
- d. 1.87 ホンマ支持後ろ振り倒立(2秒)
- e. 1.88 伸身ホンマ支持後ろ振り倒立(2秒)



Parallel Bars 平行棒

ギャツソンの技

支持または腕支持から、後ろ振りとび3/4、1/1、または3/2ひねり倒立は、空中局面を伴って実施しなければならない。該当する技は、II-82、II-83、II-84、およびI-41である。これらの技は、空中局面中に少なくとも3/4ひねりを行わなければならない。空中局面でのひねりが不十分なギャツソンの技は難度が認められない。



Horizontal Bar 鉄棒

演技開始時の振り出し(第 15.2.1.1 条)

演技開始時の振り出しは、最大3回のスイングが認められる。前や後ろへのいかなる動きもスイングとして数える。さらに、とびつきのスイングや、コーチが選手を押して振動を与える場合もスイングとして数える。



余分な握り換え(第 9.4 条)

余分な握り換えは、「余分または中間的な支持」とみなされ、毎回0.10の減点となる。

例:

- ツォ・リミンにおいて片逆手倒立で完了し、ただちに逆手に握り換えた場合、0.10の減点となるが、難度は認められる。
- アドラー1回ひねり片逆手倒立の後に、直ちに逆手に握り換えた場合、0.10の減点となる。
- 順手でのエンドー、け上がり系、または後ろ振り上がり技から、2回の握り換えで逆手になった場合、2回目の握り換えに対して0.10の減点となる。

ただし、片逆手での技(前方車輪、エンドー、後ろ振り上がり、け上がりなど)から1回の握り換えで逆手になった場合は、減点されない。



後ろ振り上がりから後方浮支持回転

演技開始時に、選手が後ろ振り上がり支持から後方浮支持回転(やその他の動き)を実施した場合、単純な方向変換(15.2.1.2.d)として0.30の減点となる。後方への振り出しで支持姿勢が見られない場合、減点対象とならない。支持姿勢とは、腕と体の角度が45°未満の場合を指す。



コバチ系の手放し技(第15.2.2.5.c項)

バーを越えながら後方かかえ込み宙返りひねり懸垂(II-82)とゲイロード2(II.83)は、特別な繰り返し(同系の手放し技は2回まで)を適用する際にはコバチ系の手放し技とみなされる。

5つの手放し技(第15.2.2.6条)

少なくとも2つの手放し技を直接連続して実施した場合(最低C+C)に限り、7技のカウントのうちに5つ目の手放し技(グループII)を含めることができる。



4.新しい技の実施

FIG MTCは、2025年前半に新しい技が実施され、成功したことを確認し、以下の技を各選手の名前と共に新しい技として認定する。男子選手は、公式FIG競技会で新しい技を成功させた場合、難度認定(C難度以上)がなされ、その技に自身の名前が付与される可能性がある。

あん馬

ジェシー・モーア(オーストラリア)

- ベルトンチェリからブスナリ
- G難度(Ⅱ-60)
- 2025年ドーハ(カタール)で開催されたワールドカップで発表された。
- 技名:モーア



跳馬

マフディ・オルファティ(イラン)

- ユルチェンコ後方かかえ込み宙返り1回ひねり
- Dスコア 5.6(#522)
- 2025年韓国で開催されたアジア選手権で発表された。
- 技名:オルファティ



平行棒

ジェームズ・ホール(イギリス)

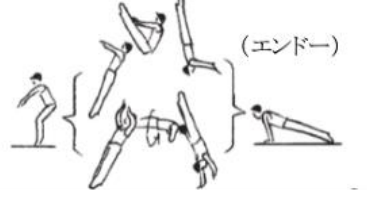
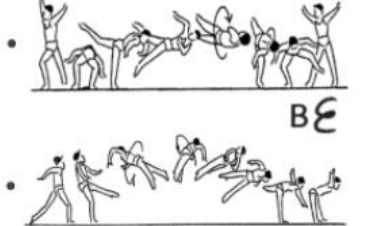
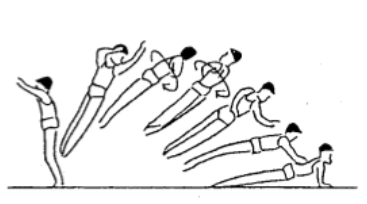
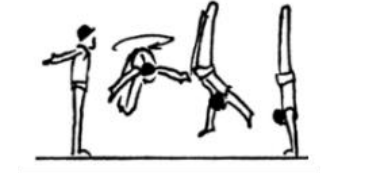
- 前方宙返り開脚抜きひねり腕支持
- E難度(Ⅱ-95)
- 2025年ドーハ(カタール)で開催されたワールドカップで発表された。
- 技名:ホール



イラストをご提供いただいた遠藤幸一氏(日本)に感謝いたします。

敬具

5.付録: ジャンプフリップのリスト

A	B	C
67 後ろとび正面支持臥 <i>Jump bwd. to front support.</i> 	68 ・後ろとび屈・伸身正面支持 ・後ろとび1回ひねり正面支持 <i>Jump bwd. with pike-stretch or with 1/1 turn to front support.</i>  (エンドー)	
73 鹿ジャンプ1回ひねり <i>Stag Leap with 1/1 turn</i> 	74 ・バタフライ1回ひねり ・後方バタフライ1回ひねり <i>Butterfly with 1/1 twist fwd. or bwd. (トンフェイ)</i>  BE	75 バタフライ2回ひねり <i>Butterfly with 2/1 twist.</i> 
115 前とび1回ひねり正面支持臥 <i>Jump fwd. with 1/1 turn to front support</i> 	116 後ろとび3/2ひねり正面支持臥 <i>Jump bwd. with 3/2 twist to front support</i> 	117 前とび2回ひねり正面支持臥 <i>Jump fwd. with 2/1 twist to front support</i> 
43 前とびひねり倒立 <i>Jump fwd. with 1/2 turn to momentary handstand</i> 	11.8 伸身前とび前転1回ひねり <i>Dive roll with 1/1 twist</i> 